

第1図 堆肥とバイオガス利用との相違
豚ふん 1 kg (乾燥重量) がどのように利用されるか

バイオガス技術はエネルギー生産技術＋液状堆肥製造技術

技術を選択する方針

- 1 経済性にすぐれた小中規模の分散・収集・資源化システムをつくる
- 2 地域の経験や技術・資源・産業を活用した低コスト「地場産」バイオガス施設をつくる
- 3 エネルギーと農業 / 生産と生活 が両立する地域作りを目指す

バイオガス施設運営にしめる平均的な年間発生 経費比率の内訳

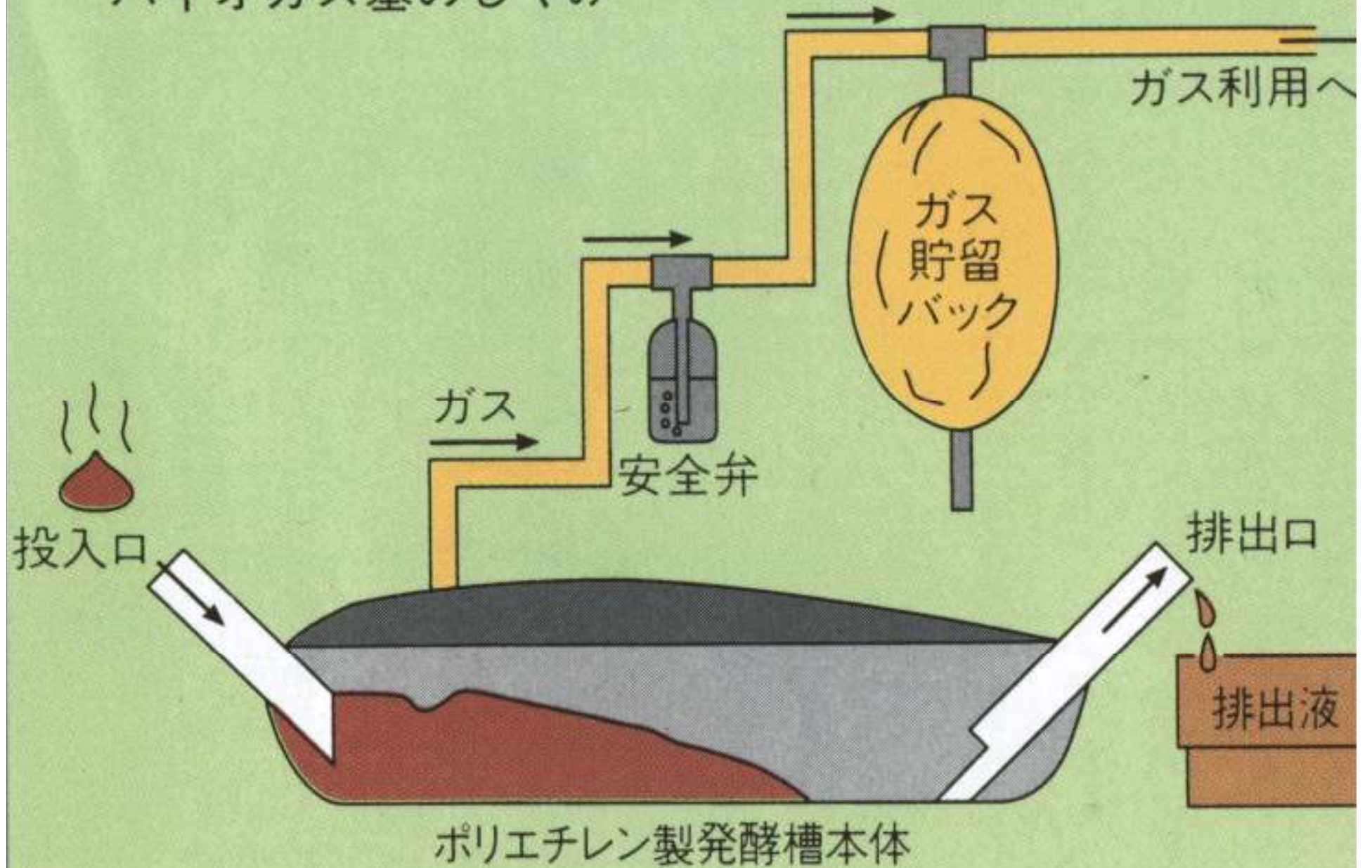
原料輸送費	30
バイオガス施設経費	70
年間発生経費合計	100
液肥の2次処理による追加経費	134
液肥処理を加えた場合の年間経費合計	234

採算性にとって重要なのは

1. 液肥を処理・廃棄せず活用すること
2. 原料収集・液肥配送距離を短くすること

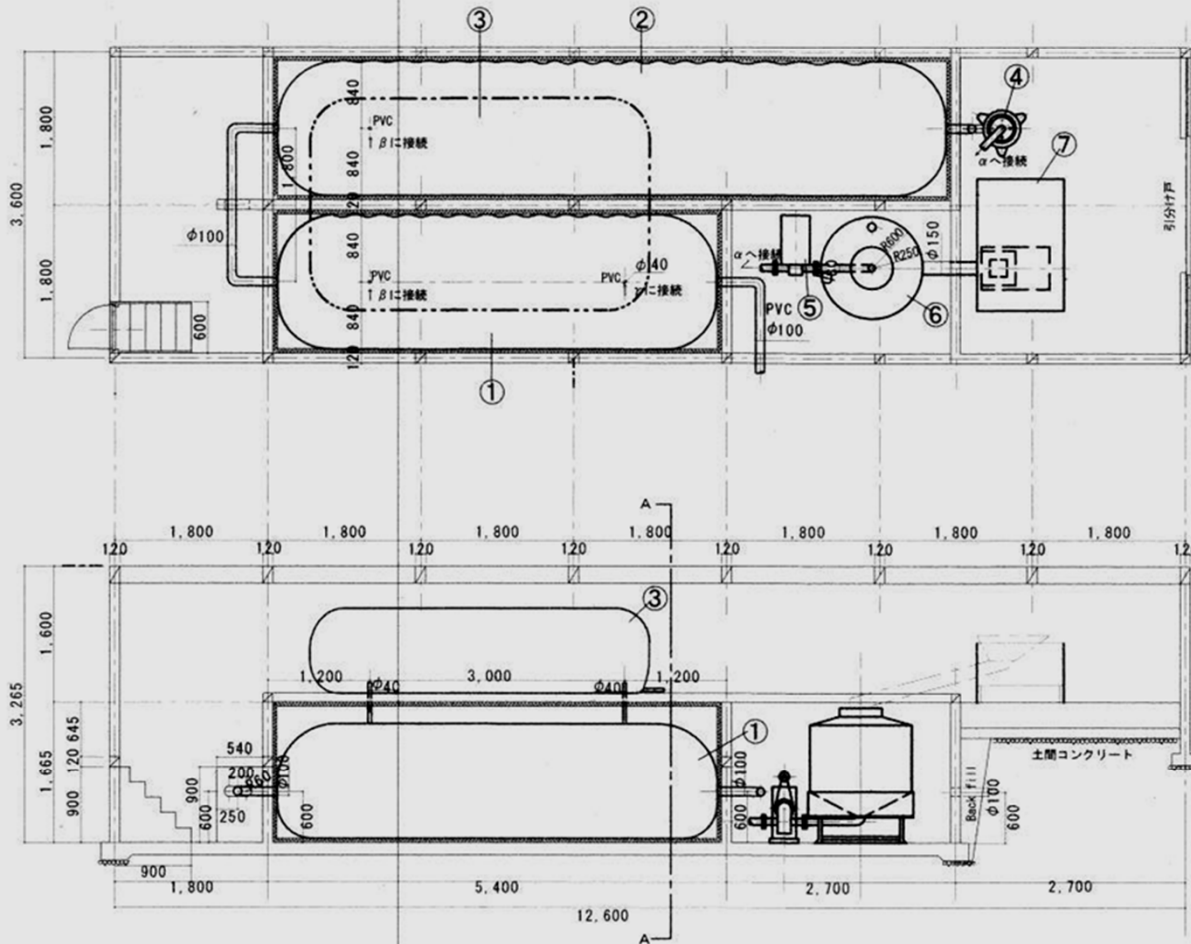


バイオガ斯基のしくみ

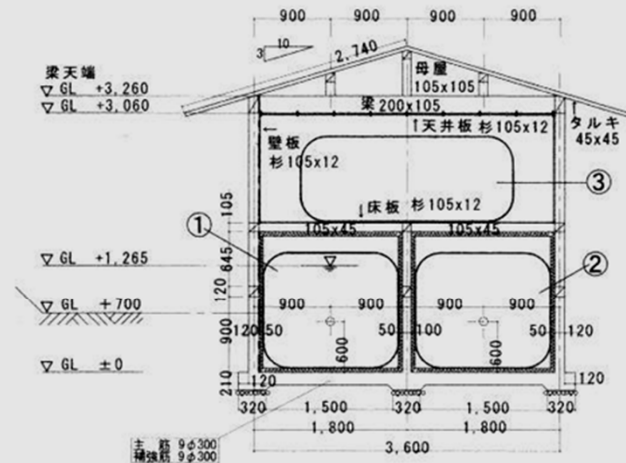


地場産バイオガスプラント概要

造施設

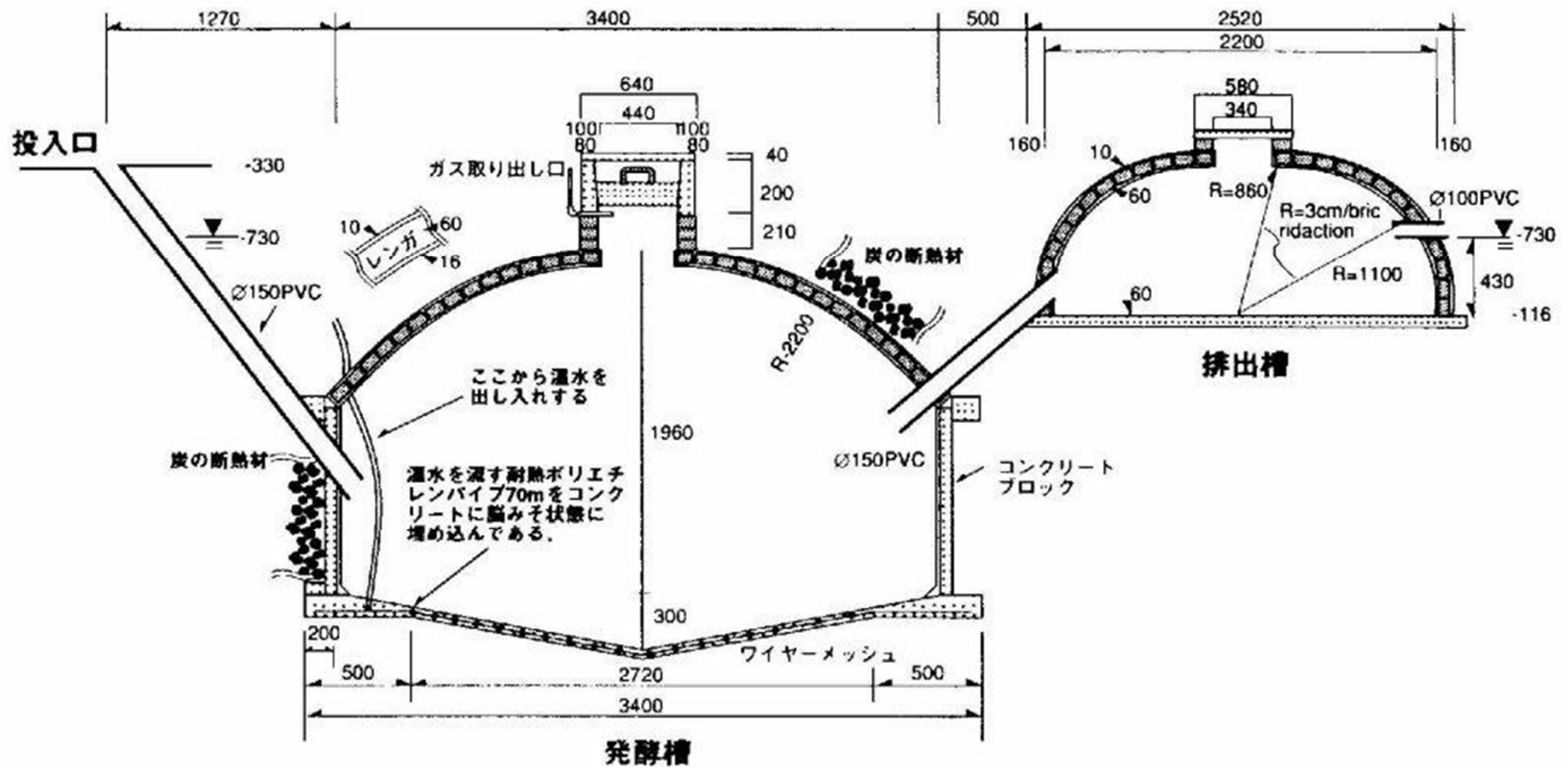


番号	装置名	H (mm)	W (mm)	L (mm)	V (m ³) (Vact)
①	液肥貯留/脱硫	1,365	1,365	4,000	8.6 (8.0)
②	主発酵槽	1,365	1,365	7,875	13.0 (12.0)
③	ガス貯蔵槽	1,000	2,500	4,000	10.0
④	マスコーター (微粉砕機)				
⑤	フォークリフト (ロータリータイプ)				
⑥	ジェネレーター (粗粉砕機)				1
⑦	生ゴミ用ホッパー				



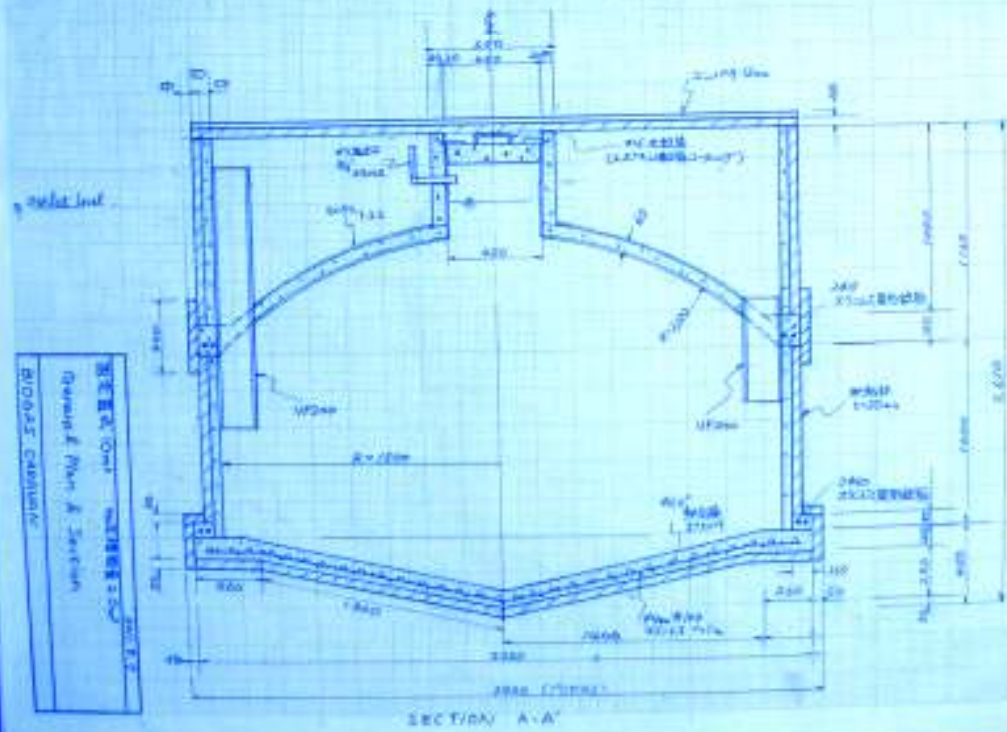
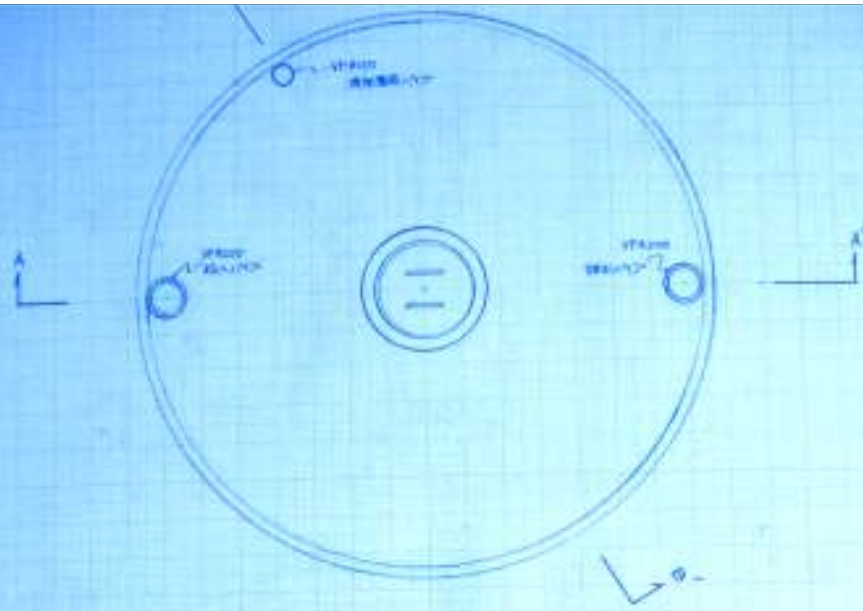
A-A 断面







2012/4/3





2012/4/3

41



2012/4/3

42



2012/4/3

43



2012/4/3

44



2012/4/3

45



2012/4/3

46



2012/4/3

47



2012/4/3

48



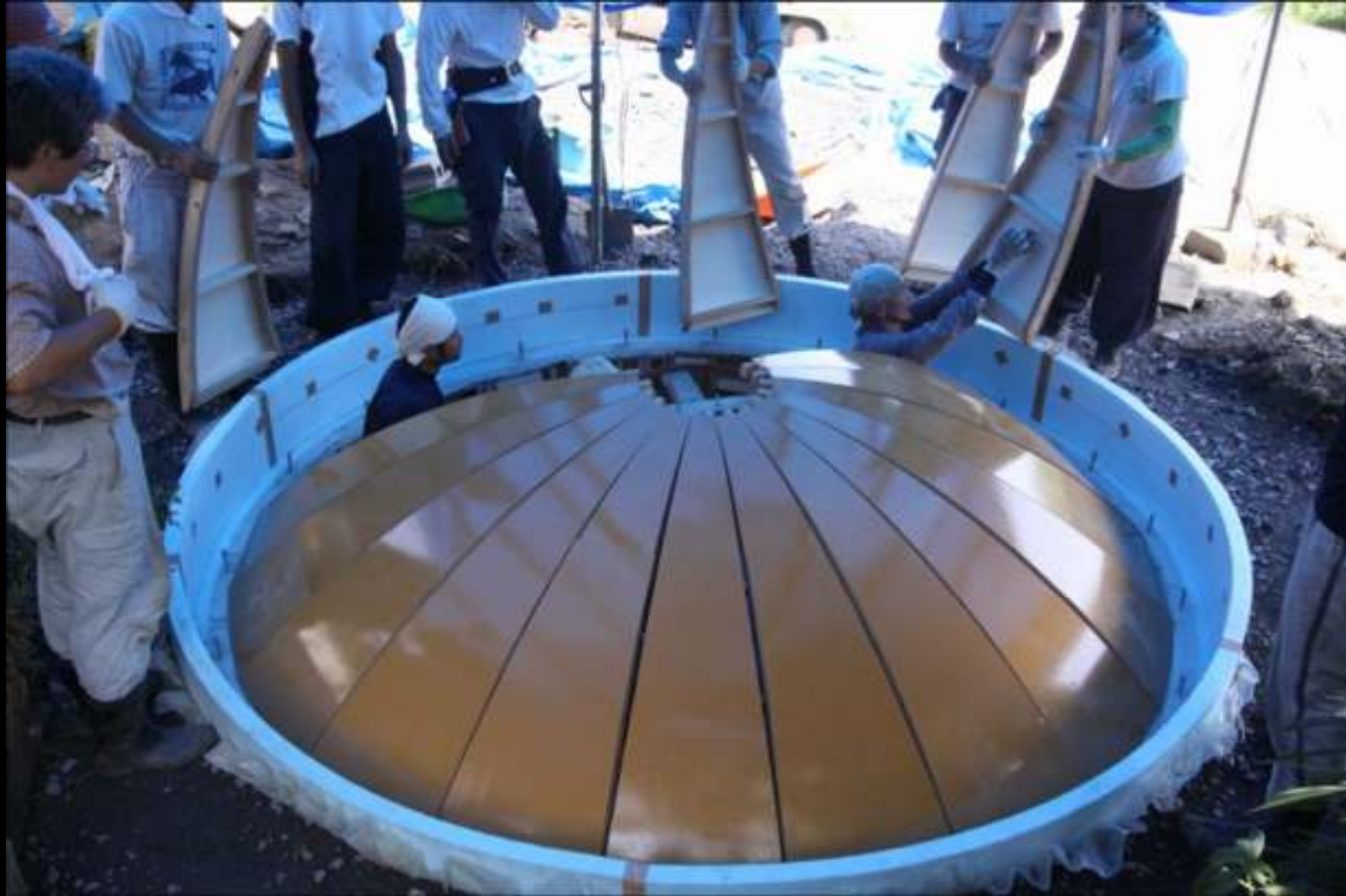
2012/4/3

49



2012/4/3

50



2012/4/3

51



2012/4/3



2012/4/3

53



2012/4/3

54



2012/4/3

55



2012/4/3

56



2012/4/3

57



2012/4/3

58



2012/4/3

59



2012/4/3

60



2012/4/3



61